

印旛沼流域水循環健全化会議

第 27 回 委員会

取組概要、前回会議での意見

目次

1. 本日の論点と年間スケジュール	1
2. 第2期行動計画と取組推進の概要説明.....	3
1) 印旛沼流域水循環健全化計画及び第2期行動計画とは	3
2) 第2期行動計画策定	4
3) 第2期行動計画の理念.....	5
4) 9つの推進テーマとテーマの推進を支える体制	6
3. 前回の会議における主な意見	8
1) 第26回委員会における主な意見.....	8
2) 第2回行動連携推進委員会・行政部会における主な意見	11

1. 本日の論点と年間スケジュール

以下に本日の論点を示し、次ページに健全化会議の主な年間スケジュールを示す。

今年度の取組のポイント

- 今年度（2018 年度）の取組の進捗確認
- 各 WG での取組共有と今後の展開
- 第 3 期行動計画策定に向けた取組（勉強会等の開催）



本日の趣旨と論点

- 今年度の各 WG の取組内容と次年度の取組方針
- 第 3 期行動計画策定に向けたポイント

平成 30 年度 印旛沼流域水循環健全化会議 年間スケジュール (主要な会議等を掲載)

No	検討項目	取組状況と予定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		平成30(2018)年																								平成31(2019)年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1	■委員会																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							</

2. 第2期行動計画と取組推進の概要説明

1) 印旛沼流域水循環健全化計画及び第2期行動計画とは

印旛沼流域水循環健全化計画

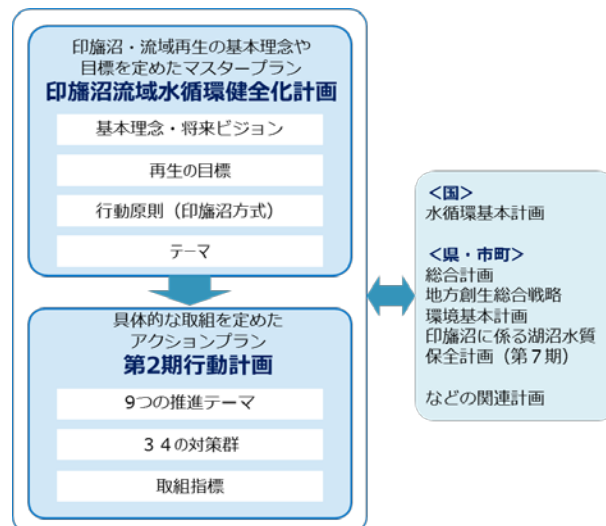
- 印旛沼流域水循環健全化計画は、2030(平成42)年度を目標年次として、印旛沼・流域再生の基本理念や目標を定めたマスタープランである。

第2期行動計画

- 健全化計画に基づき、おおむね5ヶ年を期間として、具体的な対策等を定めたアクションプランである。

※健全化計画では、行動原則として印旛沼方式が位置づけられており、その一つである「みためし行動」の考え方にに基づき、取組を実施しながら、

社会情勢の変化等を踏まえつつ、健全化計画及び行動計画をより良いものに随時見直していく。



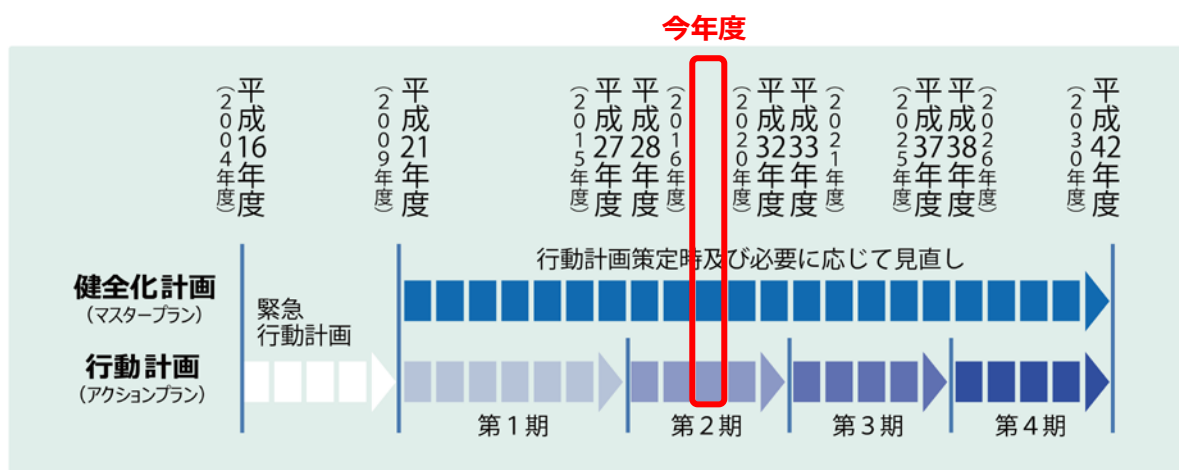
行動原則～印旛沼方式～

目標達成のための行動原則「印旛沼方式」として次の5つを定めています。

- 1 水循環の視点、流域の視点で総合的に解決します**
印旛沼とその流域全体での視点、治水・水質・生態系・親水利用等の総合的な水循環の視点から、恵みの沼の再生を目指します。
- 2 印旛沼の地域特性を活かします**
印旛沼流域内の都市域や農村域等、それぞれの地域の特徴を踏まえて取組を進めます。
- 3 みためし行動で進めます**
作成した計画の実行状況や目標の達成状況を常に確認しながら、計画を進めていきます。つくったら終わりの計画ではなく、必要に応じて計画を点検し、見直します。
- 4 住民と行政が一体となって進めます**
住民・市民団体・企業・行政等がともに手を携えて計画を実践します。流域住民は様々な取組やモニタリング調査等で、幅広く計画の実施に参加します。行政は、住民の意識啓発や、住民・企業・行政連携の対策を進めます。さらに、水循環健全化に向けたアイデア・提案を広く住民から募集する仕組みをつくります。
- 5 行政間の緊密な連携を確保します**
流域市町・千葉県・国が、また、河川・環境・農林水産・上下水道・都市・教育等の各担当部局が、水循環健全化のために横断的に協力して計画を実践していきます。

2) 第2期行動計画策定

- 平成28年度末の第25回健全化会議委員会において承認を得て、平成29年3月30日付けで策定された「印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第7期）」と整合を図り、同日付けで「印旛沼流域水循環健全化計画 第2期行動計画」を策定した。
- なお、同日付けで、「印旛沼流域水循環健全化計画」を改定している。健全化計画の改定は、基本理念である「恵みの沼をふたたび」を具体的に理想像として示し、印旛沼・流域の再生に向けた取組の組み立てを第2期行動計画の作成における検討に合わせている。
- 今年度は第2期行動計画期間の3年目である。



3) 第2期行動計画の理念

第2期行動計画では以下を理念として掲げた。

より多くの主体と共に印旛沼・流域を中心とした地域づくりを進めていく。

人をつなぎ、地域をつなぎ、未来につなぎ

水循環健全化の環^わを広げ、印旛沼流域創生のムーブメントにつなげる

●人をつなぎ／多様な主体の情報共有、理解、連携を活発にします

- ◇ 市民や市民団体、農業・漁業・観光等沼利用者、企業、流域市町、研究機関など、印旛沼・流域に関わる多様な主体が、情報共有し、お互いに理解を深めて、積極的に連携・協働・交流を図り、様々な取組を推進していきます。
- ◇ 印旛沼・流域には、水循環健全化につながる様々な市民活動がみられます。こうした市民の取組にもスポットを当てるとともに、新たな連携を図ることで、取組の推進を図ります。
- ◇ 様々な機会を捉えて、継続的に多様な主体とのコミュニケーションを図り、水循環健全化への共感を得るとともに、人と人とがつながるきっかけとしていきます。

●地域をつなぎ／流域で相互補完、相乗効果を創出し、地域づくりに活用します

- ◇ 印旛沼流域内の市町間や、印旛沼の水源地域と下流地域、農村と都市部、流域内と流域外など、印旛沼に関わる地域の有機的な連携を促し、相互補完や相乗効果の創出を図ります。
- ◇ 印旛沼流域における地域づくりとの連携、印旛沼及び流域を活用した地域創生、地域活性化を図ります。

●未来につなぎ／持続可能な取組により、地域資源である印旛沼流域を次世代に継承します

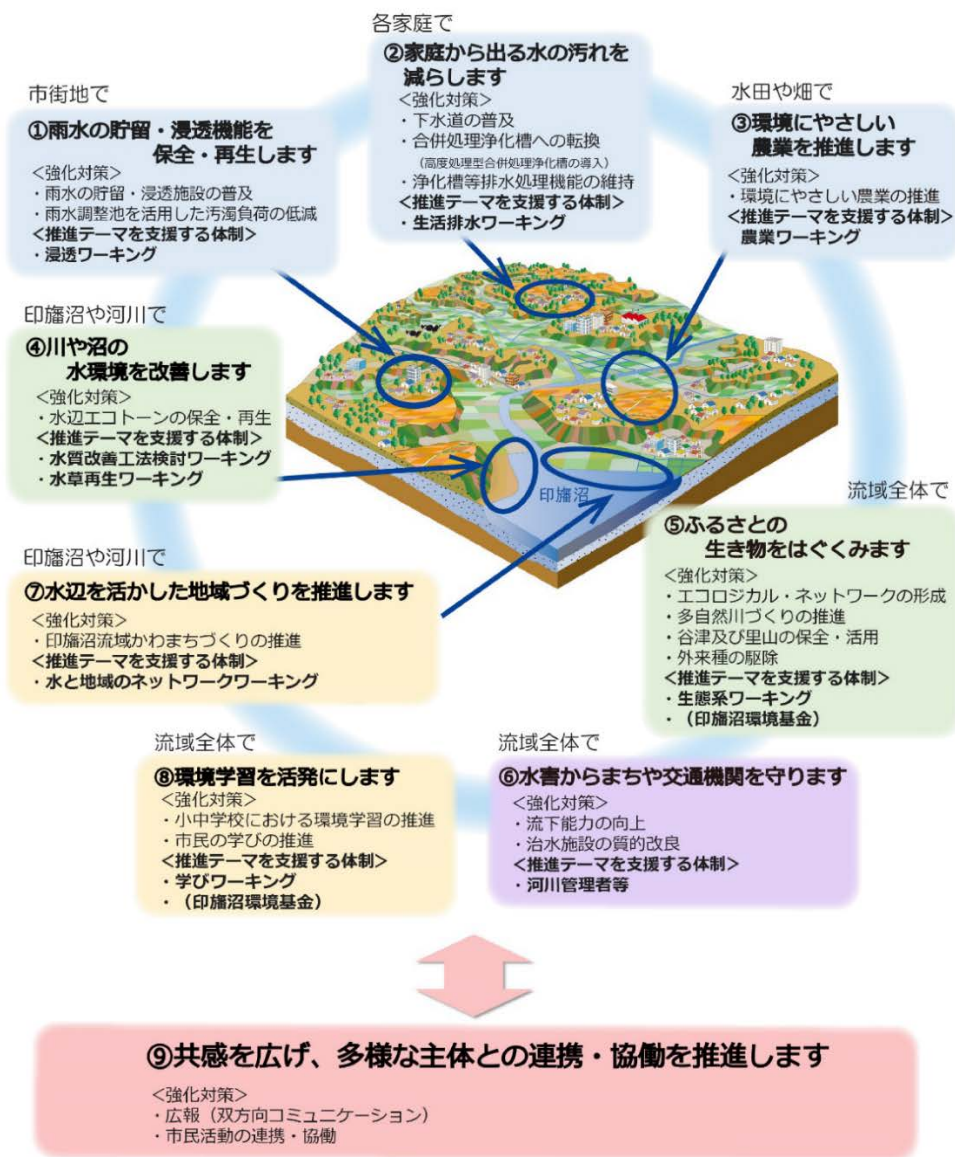
- ◇ 印旛沼との伝統的な付き合い方や先人達の知恵、長い年月をかけて育まれてきた歴史や文化、今に引き継がれている印旛沼のある暮らしの豊かさを、地域のアイデンティティとして後世に引き継ぎます。
- ◇ 印旛沼流域と人との関わりを強めることで、印旛沼流域が地域の共有の財産として、多様な人々により保全・活用され、次世代に受け継がれていくことを目指します。
- ◇ 印旛沼をめぐる人や地域がつながることで、様々な知恵やアイデアの交流が生まれ、多くの課題解決につながる取組が、将来にわたり持続的に展開されることを目指します。

○印旛沼流域創生とは

「印旛沼流域創生」とは、長い年月をかけて育まれてきた印旛沼流域の歴史や文化、印旛沼流域を特徴づける沼や水辺、台地、里山などの自然環境を、流域の多様な主体が一丸となって保全・活用し、暮らしの中で楽しむことで、人や地域の交流が活発になり、印旛沼を核としたコミュニティ再生や、印旛沼流域を中心とした地域づくりが活発になる姿をイメージしています。

4) 9つの推進テーマとテーマの推進を支える体制

- 第2期行動計画では、多様な主体による様々な取組の内容を共有し、お互いに連携しながら取組を推進するため、包括的な「テーマ」を設定し、戦略的な広報を実施する。
- そのうち、第2期計画期間中に、特に推進するテーマを「9つの推進テーマ」と位置付け、各テーマの推進を支援する組織として、ワーキング等を位置づけた。
- 下図には、設定した9つの推進テーマとそれを支援する体制を示す。
- 次ページ以降に、各WGにおける今年度の取組内容と第2期行動計画期間におけるロードマップをそれぞれ示す。



9つの推進テーマ及び強化対策、それらの推進を支援する体制

第 2 期行動計画における全体ロードマップ

テーマ等	検討事項	年度					目標／第2期機関中での 作成物等
		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31・元年)	2020 (2年)	
全体（健全化会議）	委員会、行動連携推進委員会	委員会、行動連携推進委員会を継続実施					
	第2期計画の進捗管理	目標の達成状況、9つ推進テーマに基づく取組指標については毎年進捗管理、委員会へ報告					
	各種モニタリング	モニタリング調査を継続して実施					
	第3期行動計画の検討、作成	勉強会を実施 方向性の検討 計画の骨子作成 計画素案の作成 （必要に応じて）健全化計画見直しの検討 市民等の意見聴取					第3期行動計画の作成 →湖沼計画との整合を図るため、2021年度に更新
雨水の貯留・浸透機能を保全・再生します	雨水浸透マスの設置普及	浸透量マップ、動画等の新たな啓発ツールを用いた設置普及方法の検討・実施					【目標】雨水浸透マス設置数：31,506基増
	貯留・浸透施設の普及	市町、販売業者、関係機関との連携検討、設置普及促進 普及に向けた課題整理・検討 事例収集、管理マニュアル等の整理					【目標】貯留・浸透施設の整備量：1,291箇所増
	調整池を活用した市街地面源負荷削減の推進	調整池改良の候補地の選定・調整 面源負荷削減効果の把握・理解促進 調整池改良の実施 技術的課題の抽出、事例収集整理 維持管理マニュアルの作成、普及検討					【目標】調整池雨水調整池改良の実施数：1箇所増
浸透WG	効果的な透水性舗装整備の普及	最新事例の収集整理・情報共有					【目標】透水性舗装の整備面積：123,191m2増
	浸透WGにおける成果と課題の共有	WGは年2回程度で継続 現地見学会・勉強会等の開催、最新知見の収集・共有					
家庭から出る水の汚れを減らします	千葉県全域域汚水適正処理構想での取組の着実な実施	整備の進捗状況を把握 生活排水対策マップの作成 生活排水対策マップの活用（イベント等で活用）					【目標】汚水処理人口普及率：94.8% ・下水道マップ等啓発資料を作成
	生活排水中からのりんの削減	情報収集・啓発資料リスト作成 啓発資料の作成の検討 啓発資料の活用					
	浄化槽の適正管理の推進	啓発チラシの作成の検討 市町等による活用 必要に応じて随時更新					
	生活排水WG	取組状況や取組成果・課題の共有	WGは年2回、勉強会を年1回程度で継続 アンケート、ヒアリング実施 アンケート・ヒアリングで抽出された課題への対応				
環境にやさしい農業を推進します	「（仮称）食べるエコ」プロジェクトの検討	広報の実施（店舗におけるPR活動、イベント等での広報等）および効果の検証 （Heroキャンペーンの実施） 持続可能なPR方法の検討、JA富里市以外のJA等との連携の検討・実施支援					【目標】ちばエコ農産物の認知度：1.2倍
農業WG	ナガエツルノゲイトウ堆肥の活用（生態系WGとの連携）	農業・生態系WG合同打合せ 生産者の需要の把握 生態系WGとの協議					
川や沼の水環境を改善します	水質改善対策の実施（水辺のエコトーンの再生）	実施方針の議論 浚渫の実施 植生帯整備方針の検討 植生帯整備の実施、評価 浚渫の評価 第3期(以降)の事業計画の検討					【目標】水辺のエコトーンの再生：整備方法の確立 ・今後の事業実施方針を作成 ・水草の系統維持方針を作成
水質改善工法検討WG 水草再生WG	水草の系統維持	系統維持拠点における必要な維持管理・モニタリング、既存植生帯整備箇所の状況把握 等					
ふるさとの生き物をはぐくみます	エコロジカル・ネットワーク形成の推進	市町ヒアリング、活動団体抽出 谷津・里山の保全・活用等に関する勉強会の実施					【目標】特に重要な箇所における保全・再生の取組箇所数：5箇所 ナガエツルノゲイトウによる実害の解消：1箇所
生態系WG	治水リスク低減に向けたナガエツルノゲイトウの管理	手法の確立：桑納川、神崎川 手法の検証 地域協働の仕組みづくり、堆肥化実施主体の検討・使用効果検証					
水害からまちや交通機関を守ります	河道の整備等	河道の整備等					【目標】河川整備延長：2,658m増
（河川管理者）							
水辺を活かした地域づくりを推進します	「印旛沼流域かわまちづくり計画」の推進	ハード整備 水辺拠点5箇所、一里塚20箇所 ソフト施策の実施 11施策 かわまちづくり計画の見直し 市町首長との意見交換会、市町担当者との勉強会を実施					【目標】水辺拠点等の整備箇所数：25箇所 ソフト施策実施数：11施策 河川敷地の占用件数：3件 ・かわまちづくり計画の更新
水と地域のネットワークWG							
環境学習を活発にします	学校における環境学習への支援	モデル校支援制度の運用 印旛沼環境基金助成事業による学校への支援					【目標】水環境をテーマにした環境学習実施学校数：増加 ・教員向けテキストの作成 ・印旛沼環境基金による支援事業の継続 ・ちば環境学習応援団（既存取組）との連携
学びWG	環境学習に取組む教員への支援	教員向け指導案の作成 教員研修会を実施 年1回、印旛沼環境学習の周知、PR等 試用・モニタリング、検証 活用の働きかけ					
	支援体制の充実	支援体制の充実方法の検討 ちば環境学習応援団を活用 千葉環境学習応援団の活用の働きかけ、効率的な周知方法の検討					
	市民の学びの推進	市民の学びの推進について検討					
共感を広げ、多様な主体との連携・協働を推進します	イベントなど多様な機会を通じた広報	環境・体験フェアの開催、各種イベントによる情報発信・提供等					【目標】流域で開催されるイベントとの連携による広報の件数：61件
健全化会議（印旛沼環境基金）	WEBサイトによる情報共有	WEBサイトによる情報共有の継続・更新					【目標】WEBサイトのアクセス数 4000アクセス／月
	学習会等における情報共有	環境基金が実施している学習会等への参加					
	多様な主体の連携・協働の推進	企業や市民団体等の多様な主体との連携・協働					

3. 前回の会議における主な意見

1) 第 26 回委員会における主な意見

昨年度、第 26 回委員会における開催概要と主な意見を示す。

<開催概要>

- 日時 2018（平成 30）年 3 月 13 日（火）14：00～17：00
- 場所 千葉市文化センター セミナー室
- 議事
 - (1) 今年度の取組状況と今後の取組方針
 - 1) 今年度の取組概要
 - 2) 9 つの推進テーマの取組状況
 - ① 雨水の貯留・浸透機能を保全・再生します（浸透 WG）
 - ② 家庭から出る水の汚れを減らします（生活排水 WG）
 - ③ 環境にやさしい農業を推進します（農業 WG）
 - ④ 川や沼の水環境を改善します
（水質改善技術検討会・水質改善工法検討 WG・水草再生WG）
 - ⑤ ふるさとの生き物をはぐくみます（生態系 WG）
 - ⑥ 水害からまちや交通機関を守ります
 - ⑦ 水辺を活かした地域づくりを推進します（水と地域のネットワーク WG）
 - ⑧ 環境学習を活発にします（学び WG）
 - ⑨ 共感を広げ、多様な主体との連携・協働を推進します
 - ⑩ その他
 - 3) 今後の取組方針
 - (2) 関連の取組について
 - 1) 地域適応コンソーシアム事業
 - 2) 印旛沼環境基金の取組紹介
 - 3) 校歌から見る印旛沼と地域の関係
 - (3) 計画の進捗状況
 - 1) 計画目標の達成状況
 - 2) 推進テーマにおける取組指標の進捗状況
 - (4) 報告事項
 - ・ 水循環基本法関連
 - ・ 世界湖沼会議
 - (5) その他
 - ・ 第 7 回印旛沼・流域再生大賞の募集
 - ・ WEB サイトの改訂
 - ・ 里沼ウォーキングマップの改訂
 - ・ 大和田機場の春の一般開放
 - ・ 第 7 回印旛沼流域圏交流会

<各 WG の取組状況に関する主な意見>

各 WG の取組状況については、会議中に頂いた意見に対して、会議中に関連する WG 座長等から返答を頂いた。意見を踏まえて、各 WG で取組を推進している。

テーマ	No. 意見
生活排水 WG	1. 本橋委員：浸透マスの設置普及や調整池改良により、面源系の排出負荷量がどの程度削減できたかを整理しているのか。浸透施設の整備実績がある中で、面源系の排出負荷量がどの程度減少したかを整理して発信しないと、意味がないのではないかな。 ➤ 千代委員（生活排水 WG 座長）：生活排水 WG では、個別の浸透施設による負荷削減効果がどの程度あったかというようなことは整理していない。 ➤ 小倉委員：浸透 WG では、浸透マス設置により見込まれる負荷量削減効果や、実験により調整池整備による負荷量削減効果が把握されており、雨水浸透・貯留施設の設置を流域に広げていく取組を進めている。 ➤ 本橋委員：最終的には各 WG は横連携して取組んでいく必要があると思うので、今後はしっかり連携をして評価する必要があると思う。
農業 WG	2. 本橋委員：ナガエツルノゲイトウ由来堆肥を実際に農家に使ってもらうためには、その堆肥を使用することで農作物にどのような効果があるかを示す必要がある。 3. 本橋委員：ヒシはイチゴの生育により効果があり、刈り取ったヒシをイチゴ農家が肥料として率先して使っていた。ナガエツルノゲイトウにも同じような効果があるのであれば、需要への心配は不要である。ヒシを商品に使った事例では、新しいヒシのみ刈り取り、古いヒシは刈り取らないため、イチゴ農家に刈り取ったヒシを提供する方がよいと思う。 ➤ 仲野委員（農業 WG 座長）：ナガエツルノゲイトウの堆肥は、一般的に販売されている堆肥と比べてコストが高いという意見が出ている。また、腐熟がかなり進んでいるナガエツルノゲイトウは、肥料としての効果は小さい。籾殻や稲わらの堆肥の事例として、原料の確保が難しい場合もあるため、ナガエツルノゲイトウの堆肥化についても、ナガエツルノゲイトウが安定して確保できるかが、一つの大きな課題と考えている。 ➤ 大寄オブザーバー（土木研究所）：今後、ナガエツルノゲイトウの堆肥化の活用に向けて、完全に死滅させる必要があることと、副材として何を使うのかなどを決めていく必要はある。試験的に実施した際に、ナガエツルノゲイトウの堆肥は葉物の作物に向いており、サツマイモや大豆などには向かないという話は出ている。
水と地域のネットワーク WG	4. 中村委員：今の水辺の実態を整理した水辺のカルテのような資料があれば、皆で共有できるのではないかな。護岸がどうなっているか、水質がどうなっているのか、水辺に近づくことができるかなどの情報が整理された上で、子ども達が近づくことが出来る水辺の整備に関する検討を進められるとよいと思う。 ➤ 虫明委員長：水と地域のネットワーク WG の中では、水辺の利用者として、どういう護岸になるとよいというような意見は出ているが、類型化されたカルテのようなものは聞いたことがない。水辺拠点の候補地は既に出しており、今は、水辺利用に向けてどのように整備を進めていくかを議論している段階である。

＜その他の主な意見＞

- 各 WG の取組状況以外に関する主な意見を以下に示す。

テーマ	No.	意見
関連する 取組	1.	本橋委員：印旛沼は飲み水であることを念頭に置き、バラスト水処理装置や超高速凝集沈殿処理法などの化学的手法を検討して欲しい。単に水を綺麗にするのではなく、 我々の健康のためによいものかどうか、しっかりとした知見を持って技術を使っていたきたい。
計画の進捗状況	2.	本橋委員：アオコの発生は、風による影響を受けやすい。調査の際の風のデータを整理して、 その場所でアオコが発生したのか、風により別の場所から流れてきたのか、風による影響も調べるとよい。 風による影響は、透明度にも関連すると思う。
	3.	近藤委員： 指標の達成状況は、数値で評価できないものもある。定性的な、ポジティブな評価を入れることはできないのか。 例えば、「ナガエツルノゲイトウの実害の解消」は、ナガエツルノゲイトウ協働駆除の取組を評価するなど、市民の方々の協働作業をエンカレッジできるとよいと思う。

2) 第2回行動連携推進委員会・行政部会における主な意見

今年度、第2回 行動連携推進委員会・行政部会における開催概要と主な意見を示す。

<開催概要>

- 日時 2019（平成31）年2月4日（月）13：30～17：00
- 場所 千葉県教育会館 203会議室
- 議事
 - （1）前回の行動連携推進委員会・行政部会での意見
 - （2）計画の進捗状況
 - 1) 計画目標の達成状況
 - 2) 推進テーマにおける取組指標の進捗状況
 - 3) 第2期行動計画の記載の一部訂正
 - （3）今年度の取組状況と次年度の取組方針等
 - 1) 9つの推進テーマの取組報告と次年度の取組方針
 - 2) 各種勉強会の開催報告
 - 3) 第3期行動計画の策定に向けたポイントと今後の予定
 - （4）関連取組の報告
 - ・ 先進的な流域マネジメントに関するモデル調査
 - ・ 地域適応コンソーシアム事業
 - ・ 世界湖沼会議 発表報告
 - ・ 印旛沼に関する論文等の収集
 - ・ 里沼ウォーキングマップの改訂
 - ・ 印旛沼連携プログラムの改訂
 - （5）その他

＜会議における取組等に関する委員からの意見＞

会議における各委員からの意見は以下のとおりであった。いただいた意見に対しては、各 WG での取組や、関連する検討において対応していく。

テーマ	No.	意見
浸透 WG	1.	虫明委員長：貯留浸透事業など、 流出抑制の面からの取組も浸透 WG に必要 。今までは湧水復活など環境面からの視点で実施してきたが、浸透量マップを流出抑制の評価にも使っていくことはできないのか。 ⇒金澤主査（事務局：河川環境課）：浸透量マップは、気象条件と土地利用の変化から算出して作成したもの。流出抑制の視点は入っていない。二瓶浸透 WG 座長とも相談の上、検討していきたい。
	2.	虫明委員長： 気候変動の適応策としても効果 がある。
	3.	本橋委員：雨水貯留浸透を目標指標としているが、施設整備の実績を整理しているだけ。整備することで、どの程度 印旛沼の水や流出抑制に対して効果 があったのか等の評価もしてもらいたい。
生活排水 WG	4.	虫明委員長：市町との連携など、県だけではできないところで WG が頑張っていることはわかるが、生活排水対策は行政がやれば良いと思う人もいる。 役割分担がわかるように意識 して進めてもらいたい。
農業 WG	5.	本橋委員：ちばエコ農産物を普及することは農家が使う肥料の量を減らすことであるが、流域からの負荷量の低減を数値で示すことはできないのか。 ⇒仲野農業 WG 座長：前回の農業 WG に、県の農林総合研究センターの研究員を呼んで肥料による負荷の話聞いた。海匝地域での研究事例で、窒素濃度の変化と施肥削減量の関係の評価することは難しいということであった。今の施肥が湧水として出てくるには長い年月がかかるため、施肥と湧水の窒素量では単純比較は難しい。むしろ、 いかに施肥量を減らすことができるかを農業者と一緒に考えていく ことが現状では精一杯ではないか。まだ生産者との話し合いではその話まできていない。
	6.	虫明委員長：農業 WG だけで調査することは難しいので、千葉県にはちばエコ農業を推進する部署があると思うので、 連携してほしい 。そのような連携が行政部会の意味。
	7.	近藤委員：農業生産者の方にまだ水循環を十分に伝えることができていない。窒素は、地下水流動系で印旛沼に入ってくるが、水循環の過程では脱窒もする。それらの状況がどうなっているのか総合的に理解することも必要である。関係者が水循環を理解することができれば、 自分達の水が印旛沼とどうつながっているのか が分かり、取組も進むのではないか。
水水合同会議	8.	本橋委員：浚渫を現場で見ているが、浚渫における浮泥のキャッチ率は良いように思う。ただ、 浮泥を活用することは、すぐには難しい のではないか。水草が生えるように改良しないといけない。また、栄養塩を含んでいる浮泥をいかに除去するか、浚渫工法による違いを検討しているところである。まずはそこを整理して、 浮泥の活用を実験的に検討する 。また、沼の周囲にある護岸の木柵を撤去して自然に土砂を流出させ緩傾斜とすることで水生生物を育成させることも進めているが、数年はかかるだろう。
学び WG	9.	古嶋学び WG 座長：農業 WG との連携の視点からの提案である。今年 11 月 22 日に富里市の根木名小学校で全国環境教育研究大会が開催される。 農業 WG もこの大会に、何らかの形で関わっていただく ことはできないか。 ⇒仲野農業 WG 座長：富里でスイカのマイスターの資格を持っている青年（農協青年部）が、農協から各小学校に出向いてにんじんができるまでという出前講座をしている。その説明資料もあるので、彼らに話をしてみたい。

テーマ	No. 意見
	10. 近藤委員：知識、経験の供給や問題解決の共有は学びがベースにある。高等学校では地理総合が 2022 年度から必修化されるが、この授業ができる地理の先生が高校にいない。今は、歴史の先生がやっているような状況もあり、大きな問題である。防災や地域課題の解決も学習の対象となるため、 印旛沼を対象とした教材があれば印旛沼について発信する力強いベースになる。 小中高という流れの中で教育できると良い。
水と地域のネットワーク WG	11. 本橋委員：水辺を生かした地域づくりの推進で、印旛沼八景について、印西市でも同じように選定していると思うが、健全化会議での八景と印西市の八景には齟齬が出てきてしまうのではないかと。 ⇒郡副主査（事務局：河川環境課）：印旛沼「八景」と言っているが、必ずしも 8 つに絞り込むということではなく、 各市町から上がってくる箇所を景観スポットとしてとりまとめたい と考えている。なお、印西市が出しているのは新・印西八景である。
	12. 虫明委員長：提案であるが、写真家の意見も必要だと思うので、そのような専門家の意見も聞きながら選んでほしい。
全体	13. 近藤委員：「できること」は分かっているが、この会議では 「やるべきこと」は何かというコンセンサスを作ることが健全化の目的である。 「連携」をこれからの計画で重視し、「やるべきこと」を実施できる体制にすることが重要。
第 3 期計画策定に向けて	14. 本橋委員：健全化計画の中間年であり、取組を開始して 10 年が経過し、第 2 期がターニングポイントであろう。しかし今日の説明では各 WG の成果が多かった。あと 10 年しかないので、 各 WG の個別の成果だけではなく、全体としての評価が必要 である。
気候変動	15. 虫明委員長： 気候変動適応策の法律ができ、環境部署が中心になって各自治体で議論が進んでいるが、対策を実行するのは建設や農業などの部署になる。 豪雨に対する流域での対策などは、まさに水循環健全化会議でやっていくことが必要になると思うが、第 3 期の行動計画に入ってくるのかどうか。県庁内での議論はどのような状況なのか。 ⇒石崎水質保全課長：千葉県の適応策の検討は循環型社会推進課が所掌しており、温暖化によって生じ得る影響の分析と、今後の対応の観点から計画をつくっている。農業なら農業にどういった影響があるかといったように、 それぞれの分野でどのような影響が生じるかやりとりはしているが、流域全体でどうなるのかは整理がされていない。

＜ご意見記入シートでの意見＞

会議後に、ご意見記入シートにていただいた委員、行政部会員からの意見は以下のとおりであり、事務局からの回答を合わせて示す。（回答不要の意見は除いている）

テーマ	No.	意見（原文のまま）	回答
次期計画の策定に向けて	1.	<u>千代委員</u> 会議の場でも議論があったように、健全化計画・行動計画での目標の設定、重点取組について、さらに絞り込みが必要ではないか。また行動連携推進委員会、行政部会及び各 WG の役割等を再確認するとともに、組織体制の見直し・スリム化を図るべき。	今後、第 3 期行動計画の策定に向け、取組の更なる推進（取組の選択と集中等）や取組を持続するための体制構築を検討したい。
財源確保策の検討について	2.	<u>千代委員</u> 対策の推進。展開には財源の確保が必要不可欠。 「先進的な流域マネジメントに関するモデル調査」において「財源確保策」の提案を依頼したとのことだが、県・健全化会議においても、主体的に検討していく必要がある。	今後、財源確保等も含めて取組推進について検討したい。
流入負荷削減対策について	3.	<u>千代委員</u> 印旛沼の水質改善には、流域からの流入負荷削減対策の徹底が必要不可欠である。 特に印旛沼において富栄養化の主因とされる <u>りん</u> については、3分の1強を生活系、さらに事業活動由来の産業系及び面的な排出源となる市街地系でそのほとんどを占めている状況にある。 流入負荷削減対策を重要課題として位置付け、総合的な視点を持って重点的に対策を展開していく必要がある。 特に市街地等の面源負荷については、その実態が必ずしも明らかとなっていないことから、改めて実態の把握した上で効果的な対策を実行する必要がある。	今後、第 3 期行動計画の策定に向け、第 2 期までの成果を踏まえて、取組のさらなる推進を検討したい。
印旛沼里沼ウォーキングマップについて	4.	<u>県水道局 工業用水部 施設設備課 林課長</u> ウォーキングマップ（以下「マップ」）については、平成 21 年度に初版が発行されて以来増刷・改訂を重ね、好評をもって広く利用されてきているようですが、その一方で、精度の維持が大きな課題と考えます。については、以下 2 点を提案いたします。 (1) メンテナンス体制の保持・強化を図ること ＜主な具体策＞ ①記載データの受け渡しを確実に行うこと（受注者が変わる場合など） ②利用者、特に実際に現地を歩いている者の意見や視点を的確に反映させること (2) 上記 1 ができない場合は、マップの継続発行自体を再考すること	改訂する際には、ご意見を参考とした。